

授業科目名： 第二言語習得概論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 森本 敦子
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校・高校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	英語学		
授業のテーマ及び到達目標 1. 第二言語習得に関する基本的な理論について理解するようになる。 2. 第二言語習得理論を用いた実践的な授業案を構成することができる。			
授業の概要 第二言語習得およびそれに関連する事項についての知識を、具体的な事例を参考にしながら理解を深める。また第二言語習得理論を日本の英語教育に応用しながら、授業を計画する技能を身につける。			
授業計画 第1回：イントロダクション（講義のねらいと進め方、文法指導の変遷、音声の仕組みについて） 第2回：目標項目を目立たせよう：インプット強化 第3回：目標項目の処理を手助けしよう：処理指導 第4回：話す活動と文法指導：フィードバック 第5回：ライティングのフィードバック効果 第6回：タスクを効果的に用いよう 第7回：ペア・グループワークの潜在力を引き出そう 第8回：発音指導 第9回：語彙指導 第10回：語用論指導 第11回：個人差とコンテキスト 第12回：指導の評価：スキル学習理論の観点から 第13回：フォーカス・オン・フォームの指導 第14回：第二言語習得論を用いた模擬授業の実践 第15回：まとめとフィードバック 定期試験			
テキスト 『実践例で学ぶ第二言語習得研究に基づく英語指導』 鈴木 渉 編 （大修館書店） 配布プリント			
参考書・参考資料等			

『SLA研究入門～第二言語の処理・習得研究のすすめ方～』 門田修平（くろしお出版）

学生に対する評価

毎時間の講義レポート(30%)、発表に対する評価(30%)、定期試験(40%)

授業科目名： Phonetics in Education	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 伊藤 佳世子
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校・高校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	英語学		
授業のテーマ及び到達目標			
英語音声のこれまでの変化と国際共通語としての多様な音声体系について学び、さらに音声学の基礎理論を踏まえることで、英語発音と日本語発音のそれぞれの特徴と違いを理解する。さらに日本人学習者が苦手な英語発音を効果的に指導する方法について学び、理解する。			
授業の概要			
・ 英語音声のこれまでの変化と国際共通語としての多様な音声システムを理解する。 ・ 音声学の理論を学ぶことにより、自分自身の英語の発音を向上させる。 ・ 日本人学習者を対象とした効果的な英語発音の指導方法について、理解を深める。			
授業計画			
第1回：授業ガイダンス（進め方と評価）			
第2回：英語音声の歴史的変遷と現代英語の標準発音			
第3回：英語のつづりと発音の関係			
第4回：調音点と調音様式			
第5回：英語の子音の発音のメカニズムと発音練習（閉鎖音）			
第6回：英語の子音の発音のメカニズムと発音練習（摩擦音）			
第7回：英語の子音の発音のメカニズムと発音練習（破擦音・鼻音）			
第8回：英語の子音の発音のメカニズムと発音練習（側音・半母音），中間試験（理論及び発音技能）			
第9回：英語の母音の発音のメカニズムと発音練習（短母音）			
第10回：英語の母音の発音のメカニズムと発音練習（長母音）			
第11回：英語の母音の発音のメカニズムと発音練習（二重母音）			
第12回：英語の母音の発音のメカニズムと発音練習（弱母音）			
第13回：英語の超分節音素のメカニズムと発音練習（アクセント）（リズム）			
第14回：英語の超分節音素のメカニズムと発音練習（イントネーション）			
第15回：まとめと振り返り			
定期試験			
テキスト			
「改訂新版初級英語音声学」竹林滋、清水あつ子、斎藤弘子（大修館書店）			
プリント配布			
参考書・参考資料等			

Roach, P. (1983). 'English Phonetics and Phonology (3rd ed.)' Cambridge University Press.

学生に対する評価

毎時間の講義のまとめレポートまたは実技試験(30%)、講義への積極性(30%)、定期試験(40%)

授業科目名： Intensive Reading	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名：伊藤 佳世子 森本 敦子
			担当形態：オムニバス
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校・高校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	英語学		
授業のテーマ及び到達目標			
語彙・文法知識を活用しながら、英文を正確に読み理解することができるようにする。			
授業の概要 本講義では論文や短編など、ある程度まとまった英文を精読し正しく理解するために、日本人に共通する誤読のパターンを説明し、その後に理解を深めるためにグループで練習問題に取り組む。また講義内容の定着をはかるために、内容を振り返って、小テストや定期試験を実施する。			
授業計画			
第1回：講義の概要や評価、グループ活動の説明（森本）			
第2回：論文の文体とニュースの文体（伊藤）			
第3回：小説の技法（1）視点（伊藤）			
第4回：小説の技法（2）強調・繰り返しの効果（伊藤）			
第5回：句読法（伊藤）			
第6回：英語化している日本語の単語（森本）			
第7回：授業の2回目から6回目を振り返り、論文の文体とニュースの文体、小説の技法、句読法、英語化している日本語の単語について、内容の定着を確認（森本）			
第8回：多義性（動詞における2つ以上の語義）（伊藤）			
第9回：多義性（名詞）（森本）			
第10回：形容詞の外延と内包（伊藤）			
第11回：非分離複合語と分離複合語、ハイフンつき複合語（伊藤）			
第12回：イタリックの使用について（伊藤）			
第13回：暗喩、直喩、比喩（伊藤）			
第14回：専門語の誤訳（伊藤）			
第15回：卑語、タブー語（伊藤）			
定期試験			
テキスト プリントを配布			
参考書・参考資料等 村上陽介『英語正読マニュアル』研究社出版、2000年			
学生に対する評価			
小テスト（20%）、中間・期末テスト(60%)、講義内での発表やグループワーク(20%)			

授業科目名： British Literature	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 松田正貴
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校・高校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	英語文学		
授業のテーマ及び到達目標 本講義のテーマはイギリス文学の背景および具体的作品を概観することである。イギリスという国に対する理解を深めることを到達目標とする。			
授業の概要 授業で配布する教材に沿って、イギリス文学を歴史的に概観する。各時代の社会的背景を踏まえながら、それぞれの作家が何を表現しようとしたのかを検証する。			
授業計画 第1回：ガイダンス（シラバスの確認、本講義の内容を簡単に説明する） 第2回：トマス・モア『ユートピア』とその時代 第3回：ウィリアム・シェイクスピア『オセロー』とその時代 第4回：ダニエル・デフォー『モル・フランダース』とその時代 第5回：ウィリアム・ブレイクの詩とその時代 第6回：シャーロット・ブロンテ『シャーリー』とその時代 第7回：ウィリアム・ワーズワスの詩とその時代 第8回：メアリー・シェリー『フランケンシュタイン』とその時代 第9回：アーサー・コナン・ドイル：探偵小説の幕開け 第10回：H・G・ウェルズ『タイムマシン』とその時代 第11回：D・H・ロレンス『チャタレイ夫人の恋人』とその時代 第12回：ジョージ・オーウェル『1984』とその時代 第13回：アガサ・クリスティと大英帝国 第14回：カズオ・イシグロ『浮世の画家』とその時代 第15回：まとめ 定期試験			
テキスト 教材は授業中に配布する			
参考書・参考資料等			
学生に対する評価 中間レポート(30%)、期末レポート(30%)、授業での発表(20%)、小テスト(20%)			

授業科目名： American Literature	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 松田正貴
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校・高校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	英語文学		
授業のテーマ及び到達目標			
本講義のテーマはアメリカ文学の背景および具体的作品を概観することである。アメリカという国に対する理解を深めることを到達目標とする。			
授業の概要			
テキストの流れに沿って、アメリカ文学を歴史的に概観する。各時代の社会的背景を踏まえながら、それぞれの作家が何を表現しようとしたのかを検証する。			
授業計画			
第1回：ガイダンス（シラバスの確認、本講義の内容を簡単に説明する）			
第2回：アン・ブラッドストリートの詩とその時代			
第3回：ルイーザ・メイ・オールコットの詩とその時代			
第4回：キャサリン・E・ビーチャー：19世紀のジェンダーイデオロギーと女子教育			
第5回：ソウジャーナ・トゥルースのスピーチとその時代			
第6回：ウォルト・ホイットマンと南北戦争			
第7回：フレデリック・ダグラス「人種の問題について」			
第8回：ズイトカラ・シャ「あるインディアンの子ども時代の印象」			
第9回：ジャック・ロンドン「ドルがもたらす威厳」			
第10回：アーネスト・ヘミングウェイ：狂騒の20年代			
第11回：ガートルード・スタイン：モダニズムとその時代			
第12回：スコット・フィッツジェラルド「崩壊」			
第13回：ウィリアム・フォークナーとアメリカ南部			
第14回：アーシュラ・K・ル＝グウィン：「王様は裸だ」章受賞記念スピーチ			
第15回：まとめ			
定期試験			
テキスト			
能勢卓監修『アメリカの声をひろうー 言葉で闘う作家たち』（ナカニシヤ出版）			
参考書・参考資料等			
学生に対する評価			
小テスト(20%)、中間・期末試験（各30%x2）、グループでのrevise作業(20%)			

授業科目名： English Communication II	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 森本 敦子 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校・高校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	英語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標 本授業では外国語でコミュニケーション活動を行うために、1年生で学習した内容を発展させ、英語運用能力をさらに高める事を目指す。			
授業の概要 英語コミュニケーションに関する理論を学び、さらにポスターセッションやプレゼンテーション、小学校での英語模擬授業、ディベートも実施する。			
授業計画 第1回：オリエンテーション（講義の進め方、評価の仕方） 第2回：コミュニケーション能力とは(能力、態度、異文化理解) 第3回：談話の流れを調節する事とは(発言交代) 第4回：ポスターセッションの為のグループワーク 第5回：グループによるポスターセッション 第6回：ポスターセッション後の質疑応答 第7回：母語の習得、第二言語の習得について 第8回：小学校英語で使用できる英語表現 第9回：小学校での英語模擬授業 第10回：効果的なプレゼンテーションの仕方 第11回：プレゼンテーションの為のグループワーク（パワーポイント作成等） 第12回：グループによるプレゼンテーション 第13回：基礎的な討論の技術とは何か 第14回：ディベートの為のグループワーク 第15回：ディベート 第16回：オリエンテーション(講義の進め方、評価の仕方) 第17回：英語の4技能5領域について最新の実践報告 第18回：英語の音声指導について 第19回：小学校英語で使用できる英語表現 第20回：小学校英語模擬授業のためのグループワーク 第21回：小学校英語模擬授業実践のためのリハーサル			

第 22 回：小学校での英語模擬授業

第 23 回：フィードバックとレポート作成

第 24 回：denotation(明示的意味)と connotation(言外の意味)について

第 25 回：基礎的な討論の技術とは何か

第 26 回：ディベートの為のグループワーク

第 27 回：ディベートの為のグループワーク

第 28 回：ディベート実践

第 29 回：フィードバックとレポート作成

第 30 回：後期まとめと e-learning 復習テスト

テキスト

授業内容に応じて毎回プリントを配布する。

参考書・参考資料等

『小学校学習指導要領解説(外国語活動・外国語)』文部科学省(平成 29 年)

授業中に適宜資料を配布する。

学生に対する評価

定期テストは実施しない。ポスターセッション(20%) プレゼンテーション、ディベート、小学校英語模擬授業(60%)、 e-learning テスト(20%)

授業科目名：English Communication III	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：帯野久美子 伊藤 佳世子 担当形態：複数
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校・高校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	英語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標			
特定分野のトピックの学習を通じて、学生がコミュニケーションⅠとⅡで習得した力を基に運用能力を向上させることを目指す。さらに関連情報を収集整理することで学生が自らの意見を構築すること。それを他者に伝えることで自己の力を評価し、さらなる学習に発展させていくことを目指す。TOEIC模擬診断テストを実施して学生が自己分析、学習方法の策定をできるようにする。			
授業の概要			
宗教、文化、芸術などのトピックを読み、聞く。e-learningによる自宅学習でトピックに対する自分の意見を簡単な英語にまとめ、それを意見交換したりプレゼンテーションしたりすることを通じて、書く、読む、聞く、話すに意見構築力を加えた5技能を育成する。学習したことを基に高野山を紹介するweb資料を作成して、外国人訪問者にプレゼンテーションを行う。			
第1回：オリエンテーション 講義の進め方、学びの目標と方法、評価の仕方について説明し、グループ分けをする			
第2回：初回 TOEIC 診断テスト			
第3回：診断テストの結果に基づいた、各自のスコア分析、目標設定、学習方法の策定			
第4回：宗教をテーマにしたトピックのリスニング及びリーディング学習			
第5回：関連情報を収集、整理。意見をまとめる。ディスカッションをする			
第6回：文化をテーマにしたトピックのリスニング及びリーディング学習			
第7回：関連情報を収集、整理。意見をまとめる。ディスカッションをする			
第8回：芸術をテーマにしたトピックのリスニング及びリーディング学習			
第9回：関連情報を収集、整理。意見をまとめる。ディスカッションをする			
第10回：学習したことを参考に高野山紹介の web 資料をグループで作成する			
第11回：各グループの発表、クラス全体による評価、評価結果を反映した修正			
第12回：各グループの最終プレゼンテーション、フィードバック、フィールド学習の準備			
第13回：外国人訪問者にプレゼンテーションを行う			
第14回：外国人訪問者にプレゼンテーションを行う			
第15回：最終 TOEIC 診断テスト、自己評価と学習の振り返り			
テキスト			
Webテキストを使用			
参考書・参考資料等			

TOEIC過去問題集を使用
学生に対する評価 定期試験は実施しない。webによる自宅学習(30%)、授業に対する積極的な態度(30%)、プレゼンテーション(40%)

授業科目名：Critical Thinking and Creative Writing	教員の免許状取得のための必修科目	単位数：2単位	担当教員名：伊藤 佳世子 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校・高校）		
施行規則に定める科目区分又は事項等	英語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標：			
①学術的な文章を記述するための基本を理解し、自分の意見や考えを英語でまとめる技術を身につけることができる。			
②批判的思考（クリティカルシンキング）を理解し、その技術を身につけ、自分の意見をまとめることができるようになる。			
③英語での効果的なプレゼンテーション力を身につけることができる。			
授業の概要：			
学術的かつ論理的に思考を組み立て、英文をまとめる技術を学ぶ講義である。まずは基本的な知識を集約し、自分の意見や考えを批判的思考（クリティカルシンキング）を身につけながらまとめる力を段階的に習得し、テーマに沿って討議しながらプレゼンテーション力も身につけることができる。英語での発表や発信が主な目的であるため、学生の創造力を養いながら効果的に書き、伝える力を身につけることができる。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション：講義概要、評価（個人・グループ）の説明			
第2回：ユニット1 「70億人が生きる地球で自分はどのように生きようとするのか」 [ライティング]:アカデミック・ライティングの修辞構造を学ぶ			
第3回：ユニット2 「目標の職種を獲得するために何をすればよいのか」 [ライティング]:資料作成の仕方と倫理、参考文献の提示			
第4回：プレゼンテーションのためのグループワーク (ブレーンストーミング, アウトライン作成、資料検索)			
第5回：ユニット3 「マイクロアドベンチャーの意義について考える」 [ライティング]:分類と比較・対照エッセイの展開方法			
第6回：ユニット4 「ビジュアル時代に真偽を確かめる（ディープ・フェイク）」 [ライティング]:原因と結果のパラグラフの展開方法			
第7回：ユニット5 ① 「リスク・テイクーについて考える」 [ライティング]:意見を述べるパラグラフの展開方法（演繹法と帰納法）			
第8回：ユニット5 ② 「リスク・テイクーについて考える」 [ライティング]:意見を述べるパラグラフ（法助動詞について）			
第9回：ユニット6 「絶滅危惧種について考える」			

[ライティング]:問題解決のパラグラフの展開方法

第10回: ユニット 7 「いくつかの発明品について考える」

[ライティング]:描写のパラグラフ (形容詞の外延と内包・時間経過の描写法)

第11回: ユニット 8 「身近にある問題を採り上げ分析する」

[ライティング]: 分析のパラグラフの展開方法

第12回: 「効果的なプレゼンテーションをするために (目的・対象等・ノンバーバル)」

第13回: グループワーク (スライドやハンドアウト等の資料作り)

第14回: グループによる英語でのプレゼンテーション

第15回: フィードバック (グループでの発表について)

定期試験

テキスト

『Pathways—Reading, writing, and Critical Thinking (Foundation)』 Second Edition.
Laurie Blass, National Geographic 2019 ISBN:978-1-337-62509-8

参考書・参考資料等

『決定版 英語エッセイ・ライティング』コスモピア 2014年 門田修平監修著
ISBN:978-4-86454-050-6

参考書は講義中に適宜紹介する。また資料のプリントを配布する。

学生に対する評価

英語によるプレゼンテーション(40%), レポート(20%), まとめテスト(20%), 講義内での発表およびグループワークでの貢献度(20%)

授業科目名： 異文化理解Ⅰ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：帯野 久美子
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校・高校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	異文化理解		
授業のテーマ及び到達目標			
諸外国の独自の文化や考え方に対して理解を深めながら、特定の文化に対し偏見を持たない、ものの見方のできる教員の育成を目指す			
授業の概要			
本学の特色を踏まえ、世界文化遺産を中心に、諸外国の人々の生き方、考え方、文化について知り、正しく理解できるようになる。			
価値観の異なる人とのコミュニケーションについて考え、現代社会の諸課題を考察する態度を養う。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション、異文化について考える			
第2回：他者との出会い：「異なる」という意味			
第3回：あらゆるコミュニケーション手段について			
第4回：ことばというシンボル			
第5回：グローバル化とメディア			
第6回：英語という言葉：外国語を学ぶ意味			
第7回：異文化交流の意味			
第8回：諸外国の文化を知る DVD視聴			
第9回：ヨーロッパの文化を知る			
第10回：東南アジア、南アジア、アフリカ、中南米の文化を知る			
第11回：世界遺産の変遷および文化遺産と観光 DVD視聴			
第12回：国際社会と文化、国際協力と文化的権威主義			
第13回：文化から見る国際理解の促進			
第14回：移民・難民問題から考える多文化社会			
第15回：グループによるプレゼンテーション			
定期試験：なし			
テキスト：なし			
参考書・参考資料等			
なし、			
学生に対する評価：授業への積極的参加(20%、ディスカッション及び発表20%、レポート課題60%			

授業科目名： 異文化理解Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：帯野 久美子
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校・高校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	異文化理解		
授業のテーマ及び到達目標			
特定の文化に対し偏見を持たない、ものの見方のできる教員の育成を目指し、自分の考えもきちんと主張できる技術を身につけている。			
授業の概要			
価値観の異なる人ともコミュニケーションをとり、教育や地域づくりに携わり、参画するための知識と姿勢を身につける。			
具体的な異文化接触場面の事例を取り上げ、ディスカッションしたり、ゲーム、シミュレーションなどの活動をする。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション、異文化理解Ⅰの振り返り			
第2回：コミュニケーションのメカニズムと異文化摩擦の原因			
第3回：言語コミュニケーション			
第4回：非言語コミュニケーション(ジェスチャー、表情)			
第5回：非言語コミュニケーション(対人距離、時間の捉え方)			
第6回：異文化/自文化理解を深めるカードゲーム			
第7回：異文化体験のシミュレーション・ゲーム			
第9回：地域における外国人の子どもを取り巻く課題及び課題への対応			
第10回：世界目線でニュースを読み・聞き・話す			
第11回：外国にルーツを持つ子どもたちとのコミュニケーション			
第12回：日本が求める留学生とは：グループディスカッション			
第13回：多文化社会について：グループディスカッション			
第14回：多文化社会について：プレゼンテーション			
第15回：まとめ、振り返り			
定期試験：なし			
テキスト：なし			
参考書・参考資料等			
なし、			
学生に対する評価：授業への積極的参加(20%、ディスカッション及び発表20%、レポート課題60%			

授業科目名： 海外留学体験	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 4単位	担当教員名： 帯野 久美子 伊藤 佳世子 森本 敦子
			担当形態：オムニバス
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校・高校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	異文化理解		
授業のテーマ及び到達目標			
講義では留学前は、海外での講義で対応できるようにリーディングやリスニング学習をすると共に、グループ学習でのロールプレイや、プレゼンテーションを行う。また留学後は海外で培った経験をもとに様々な資料を使用して自らの考えを英語で発信できるように学習する。			
授業の概要			
本講義では前期は海外留学の前の準備として、留学先の文化や生活を学び、留学に関して様々な準備すべきことを学習する。また留学のための関係書類の書き方も学習する。5週間の留学期間を終えて、後期はその留学経験をもとに、英語の4技能5領域のさらなる向上と、様々な国の文化に対して偏見を持ったり固定観念で判断することなく理解できるようになることを目的とする。			
授業計画			
第1回：[留学前オリエンテーション]予習範囲、授業の進め方、e-leaningについて、成績評価、グループ学習について説明する。（帯野）（伊藤）（森本）			
第2回：留学の目的を明確にする。留学経験者の体験談。プレテスト。（帯野）			
第3回：復習単語テスト、留学先の文化や生活について学ぶ。e-learning(Listening)（伊藤）			
第4回：復習単語テスト、教室での英語表現を学習する。e-learning(Listening)（森本）			
第5回：復習単語テスト ホームステイ先での英語表現を学習する。e-learning(Listening)（森本）			
第6回：復習単語テスト 3分程度の自己紹介をする。e-learning(Listening)（帯野）			
第7回：復習単語テスト 高野山大学での学生生活を英語で表現する。e-learning(Listening)（伊藤）			
第8回：復習単語テスト 学習した内容(自己紹介と学生生活)を各自プレゼンする。e-learning(Listening)（帯野）			
第9回：留学前の様々な関係書類を作成するための支援（伊藤）			
第10回：海外事情の視察①（伊藤）			
第11回：海外事情の視察②（伊藤）			
第12回：海外事情の視察③（伊藤）			
第13回：海外事情の視察④（伊藤）			

- 第14回：海外事情の視察⑤（帯野）
- 第15回：海外事情の視察⑥（帯野）
- 第16回：海外事情の視察⑦（帯野）
- 第17回：海外事情の視察⑧（森本）
- 第18回：海外事情の視察⑨（森本）
- 第19回：海外事情の視察⑩（森本）
- 第20回：留学後の英語力判定テスト、自己採点（帯野）
- 第21回：留学の報告レポートを作成、発表準備（伊藤）
- 第22回：[留学後オリエンテーション]講義の進め方、成績評価、グループ学習について説明（森本）
- 第23回：留学後の効果的な英語学習方法について体験談を聞く e-learning(Listening)（伊藤）
- 第24回：復習英作文テスト、プレゼンテーション準備、e-learning(Listening)
- 第25回：プレゼンテーションe-learning(Listening)（帯野）
- 第26回：復習英作文テスト、ポスターセッションの為の講義、e-learning(Listening)（伊藤）
- 第27回：ポスターセッション、e-learning(Listening)（帯野）
- 第28回：復習英作文テスト、ディベートの準備、e-learning(Listening)（伊藤）
- 第29回：ディベート実践、e-learning(Listening)（帯野）
- 第30回：「今後の目標」をテーマに各自5分間スピーチをする、e-learning(Listening)（帯野）

テキスト

講義に必要なプリントを配布する。

参考書・参考資料等

参考書は講義中に適宜紹介し、プリントは配布する。

学生に対する評価

e-learningと授業態度、単語テストやプレゼンテーションを加味して行う。毎回の小テスト(30%)、発表やレポート(50%)、授業参加の積極性(20%)

授業科目名： 高野山国際ガイド 体験	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 伊藤佳世子 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校・高校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	異文化理解		
授業のテーマ及び到達目標			
ガイド体験実施するにあたり、高野山に関する様々なことを学び、ガイドに必要な英語力を習得し、プレゼンできるようにする。観光ガイドを実施する予定地として、「壇上伽藍」「奥の院」「奥の院」を中心にしている。また「精進料理」など、高野山大学ならではの密教に関することを英語で発信できることを目的とする。			
授業の概要			
English Communication 等で学んだ知識や技能を、実際に観光ガイド体験をすることで深め、より高いレベルの英語活用能力を獲得することを目指す。具体的には世界遺産高野山を訪れる多くの外国人観光客を対象にボランティアの観光ガイドとして、高野山の歴史、建造物やそれに関わる逸話や精進料理（もてなし料理）、さらに高野山大学ならではの密教に関する説明を英語で行う。本講義ではガイド体験を通して、日本の文化を紹介することを通して異文化を偏見なく理解することを目的とする。			
授業計画			
第1回：授業の進め方、予習の範囲、成績評価について説明し、ガイド予定地のグループ分けをする			
第2回：和歌山県あるいは高野山観光協会の職員による「高野山観光の現状」のレクチャーと質疑応答			
第3回：観光ガイドにおける倫理や地域との連携についての講義			
第4回：高野山の音声ガイドや英語案内版に関する現在の問題点についての講義			
第5回：高野山大学密教学科の逸話研究専門家から逸話についての講演			
第6回：グループワーク①（担当箇所の資料収集と逸話の抜粋）			
第7回：高野山の音声ガイドや英語案内版に含まれていない情報を分析・発表する			
第8回：グループワーク②（現地でのガイドに使用する資料作りをする）			
第9回：グループワーク③（観光説明や逸話の英文作成）			
第10回：精進料理やもてなし料理を英語でどのように表現するのかを講義する。			
第11回：グループワーク④（各グループで山内の寺院で提供される料理を英語で説明する）			
第12回：海外の大学生に向けてzoomで高野山観光ガイドの予行演習をする			
第13回：ガイド体験①(現地で外国人にガイドをする)			
第14回：ガイド体験①(現地で外国人にガイドをする)			
第15回：ガイド体験後にビデオを見てフィードバックとアンケートを行う			

テキスト

テキストは使用しない

参考書・参考資料等

参考書は講義中に適宜紹介し、プリントを配布する

学生に対する評価

予習状況と授業態度(グループワーク)、ガイド体験の成果を加味して行う。

英文作成(30%)、発表(40%)、授業参加の積極性(30%)

授業科目名：	教員の免許状取得のための	単位数：	担当教員名：尾上 利美
英語科指導法Ⅰ	必修科目	2単位	担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)		
授業のテーマ及び到達目標			
中学校・高等学校において「外国語科(英語)」の授業に関わる教員が必要とする基本的な専門知識の習得を目標とする。			
授業の概要			
小学校・中学校・高等学校の外国語教育の見通し、小学校での外国語教育を踏まえて、中学校段階において生徒に外国語(英語)を指導するために必要な基本的な指導技術を身につける。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション、中学校・高等学校学習指導要領「外国語科(英語)」の理解			
第2回：小学校での外国語教育を踏まえ、中学校・高等学校における「外国語科(英語)」における役割を理解する。			
第3回：英語教育の目的（英語学習の意義、教育の目的と英語教育）			
第4回：英語教育の指導目標（学習指導要領が閉まる基本方針、学習指導要領の変遷）			
第5回：学習指導要領における英語各科目の目標			
コミュニケーション能力の構成要素（言語能力、認知能力、態度・姿勢など）			
第6回：英語指導方法について 目標設定と指導及び評価			
第7回：英語指導方法について 年間指導計画			
第8回：英語指導方法について 授業の流れから見た指導技術①			
挨拶、ウォーミングアップ、復習、オーラル・イントロダクション			
新出言語項目の導入、理解活動、読後活動・表現活動			
第9回：英語指導方法について 授業の流れから見た指導技術②			
クラスルーム・イングリッシュ、発音指導、文字指導、語彙指導、文法指導			
第10回：英語科学習指導案作成 「中学1年生英語」 指導案のモデルについて説明			
第11回：英語科学習指導案作成 指導案作成上の留意点 グループディスカッション			
第12回：授業観察 DVDの視聴			
第13回：模擬授業① 復習、新語導入、オーラル・イントロダクション、内容理解、文法、音読、言語活動など 模擬授業後のグループディスカッション			
第14回：模擬授業② 英語教材研究の方法(ICT活用を含む) グループディスカッション			
第15回：まとめ、振り返り			
定期試験：なし			

テキスト

特になし

参考書・参考資料等

「小学校学習指導要領」「小学校学習指導要領解説（外国語編・外国語活動編）」

「中学校学習指導要領」「中学校学習指導要領解説（外国語編）」

「高等学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領解説（外国語編）（英語編）」

学生に対する評価：授業への積極的参加(20%、ディスカッション及び発表40%、レポート課題40%)

授業科目名： 英語科指導法Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：尾上 利美 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)		
授業のテーマ及び到達目標 中学校・高等学校において「外国語科(英語)」の授業に関わる教員が必要とする基本的な専門知識の習得を目標とする。			
授業の概要 小学校・中学校・高等学校の外国語教育の見通し、小学校での外国語教育を踏まえて、中学校段階を想定して、実践的な英語力高める。また、英語教師として生徒に外国語(英語)を指導するために必要な指導技術、評価、テスト、教授法、英語教師論等の理論についても理解する。			
授業計画 第1回：オリエンテーション、授業計画、授業の進め方について 第2回：英語評価と言語テストについて 言語テストの目的と種類と役割、条件 第3回：英語評価と言語テストについて 英語能力と観点別評価 第4回：英語評価と言語テストについて 言語テストの作成と実施、評価のための統計 第5回：二言語習得研究に基づく英語指導1 様々な知見を理解する (ICT活用を含む) 第6回：第二言語習得研究に基づく英語指導2 インプット、アウトプット 第7回：第二言語習得研究に基づく英語指導3 インタラクションを中心に 第8回：第二言語習得研究に基づく英語指導4 文法指導の役割 第9回：外国語教授法について、英語教師論について 第10回：小学校外国語教育について (ICT活用を含む) 第11回：英語科学習指導案の作成① 「中学2年生英語」学習指導案モデルの検討 第12回：英語科学習指導案の作成② 「中学3年生英語」学習指導案モデルの検討 第13回：模擬授業① 模擬授業後のグループディスカッション 第14回；模擬授業② 模擬授業後のグループディスカッション 第15回：まとめ、振り返り 定期試験：なし			
テキスト 特になし			

参考書・参考資料等：

「小学校学習指導要領」「小学校学習指導要領解説（外国語編・外国語活動編）」

「中学校学習指導要領」「中学校学習指導要領解説（外国語編）」

「高等学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領解説（外国語編）（英語編）」

学生に対する評価：授業への積極的参加(20%、ディスカッション及び発表40%、レポート課題40%)

授業科目名：	教員の免許状取得のための	単位数：	担当教員名：尾上 利美
英語科指導法Ⅲ	必修科目	2単位	担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)		
授業のテーマ及び到達目標			
中学校・高等学校において「外国語科(英語)」の授業に関わる教員が必要とする授業実践力の基本を身につけることを目標とする。			
授業の概要			
・高等学校における教育課程編成のあり方を理解することができる。 ・高等学校における語彙、文法、リスニング、ライティング、スピーキング、リーディングの指導方法及び、授業分析方法と指導案作成方法について理解する。 ・高等学校外国語科(英語)の学習指導案を作成することができる。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション、英語科指導法ⅠとⅡの振り返りとⅢの授業について			
第2回：高等学校教育課程の中における英語科各科目授業の位置づけについて			
第3回：模擬授業実施のための学習指導案作成方法及び授業分析方法 Flanders Interaction Analysis Categories			
第4回：模擬授業実施のための学習指導案作成方法及び授業分析方法 Foreign Language Interaction			
第5回：評価方法について(客観テストと主観テスト・目標基準準拠テストの在り方・総合評価と分析的評価など)			
第6回：新学習指導要領における中学校英語教育と高等学校英語教育の連携について			
第7回：高等学校におけるティームティーチングの理念と実践 (ICT活用を含む)			
第8回：コミュニケーション能力の育成と文法指導の在り方			
第9回：英語学習者について(発達の要因・適正要因・認知的要因・動機付け)			
第10回：英語教師について 教室英語の使用法など			
第11回：リスニング指導の在り方			
第12回：スピーキング指導の在り方			
第13回：リーディング指導の在り方			
第14回：ライティング指導の在り方			
第15回：まとめ、振り返り			
定期試験：なし			
テキスト：特になし			
参考書・参考資料等			
『新学習指導要領にもとづく英語科教育法第3版』望月昭彦(編著)・大修館書店			

「小学校学習指導要領」「小学校学習指導要領解説（外国語編・外国語活動編）」

「中学校学習指導要領」「中学校学習指導要領解説（外国語編）」

「高等学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領解説（外国語編）（英語編）」

学生に対する評価：授業への積極的参加(20%、レポート課題40%、小テスト40%)

授業科目名： 英語科指導法Ⅳ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：尾上 利美 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)		
授業のテーマ及び到達目標 中学校・高等学校において「外国語科(英語)」の授業に関わる教員が必要とする授業実践力の基本を身につけること目標とする。			
授業の概要 ・ 英語科指導法Ⅲで学んだ内容を実践に応用できる。 ・ 高等学校のテキストをもとに適切な学習指導案を作成することができる。 ・ 積極的に模擬授業に参加することができる。			
授業計画 第1回：オリエンテーション、英語科指導法Ⅲの振り返りとⅣの授業について 第2回：模擬授業とその分析(文法の指導方法) 第3回：模擬授業とその分析(不定詞の指導方法) 第4回：模擬授業とその分析(助動詞の指導方法) 第5回：模擬授業とその分析(間接疑問文の指導方法) 第6回：模擬授業とその分析(仮定法の指導方法① 仮定法過去) 第7回：模擬授業とその分析(仮定法の指導方法② 仮定法過去完了) 第8回：模擬授業とその分析(分詞構文の指導方法) 第9回：模擬授業とその分析(比較構文の指導方法① 原級比較) 第10回：模擬授業とその分析(比較構文の指導方法② 比較/最上級) 第11回：模擬授業とその分析(関係代名詞の指導方法) 第12回：模擬授業とその分析(コミュニケーション英語の指導方法) (ICT活用を含む) 第13回：模擬授業とその分析(クラスルームイングリッシュの活用方法) (ICT活用を含む) 第14回：第2回～第13回の模擬授業についてのグループディスカッション、改善方法等 第15回：まとめ、振り返り 定期試験：なし			
テキスト： 特になし			

参考書・参考資料等

『新学習指導要領にもとづく英語科教育法第3版』望月昭彦(編著)・大修館書店

「小学校学習指導要領」「小学校学習指導要領解説(外国語編・外国語活動編)」

「中学校学習指導要領」「中学校学習指導要領解説(外国語編)」

「高等学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領解説(外国語編)(英語編)」

学生に対する評価：授業への積極的参加(20%、レポート課題40%、小テスト40%)

授業科目名： 学校・保育現場体験Ⅰ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 今西幸蔵				
			担当形態：単独				
科 目	大学が独自に設定する科目						
施行規則に定める 科目区分又は事項等							
授業のテーマ及び到達目標 教育現場を知る機会を豊富に持ち、教職への理解を深め、教員として持つべき資質・能力の育成を目指す							
授業の概要 学校・保育現場での体験活動。活動の内容は ・授業・保育の見学・行事への参加・下校や帰りの指導・給食・清掃の補助 ・授業・保育における教員・保育士とのチームティーチングによる学習・保育指導補助 ・その他、この体験の目的に即した活動 などである。体験が深まるまでは見学や行事の手伝い、下校・帰りの指導などが中心となり、経験が深まるにつれて内容が高度になる。							
授業計画 学校・保育現場での体験活動であり、通常の講義とは形態が異なるので、シラバスについても同様には記載できない。連携教育委員会との合意プログラムの概要を記載する。 学校・保育現場体験Ⅰ： 1年生通年 必修科目 30時間 体験日時・内容 <table border="1"> <thead> <tr> <th>期間</th> <th>日時</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>学校・保育現場体験Ⅰ</td> <td>6月中旬～12月下旬 週1日火曜日×4日 8:20～16:30</td> </tr> </tbody> </table> 内容詳細 ① 業務全般(児童・幼児の個人情報に関すること、成績に関すること、会議参加等は不可) ② 授業の見学・学校行事への参加・下校指導・給食・清掃の補助 ③ 校外学習は参加不可(徒歩で移動する校区探検・社会体験・社会見学などには参加可) ④ 授業における児童・幼児への学習指導補助 ⑤ その他、この体験の目的に即した活動であり、校園長が認めるもの 体験するまでの流れ ◎学校・保育現場体験Ⅰ 4月下旬 説明会・事前指導 5月中旬 体験先決定(河内長野市教育委員会・高野山大学で協議) 6月中旬～ 体験開始 適宜、振り返りを含む中間的な指導				期間	日時	学校・保育現場体験Ⅰ	6月中旬～12月下旬 週1日火曜日×4日 8:20～16:30
期間	日時						
学校・保育現場体験Ⅰ	6月中旬～12月下旬 週1日火曜日×4日 8:20～16:30						

1 月下旬 事後指導
テキスト 資料「学校・保育体験ガイド」配布
参考書・参考資料等 使用しない
学生に対する評価 教育実習に準じて、校園長、担任の評価を基に、担当教員が評価する。(100%)

授業科目名： 学校・保育現場体験Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 山田正行/柳原高文 担当形態：複数
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 教育現場を知る機会を豊富に持ち、教職への理解を深め、教員として持つべき資質・能力の育成を目指す			
授業の概要 学校・保育現場での体験活動。活動の内容は ・授業・保育の見学・行事への参加・下校や帰りの指導・給食・清掃の補助 ・授業・保育における教員・保育士とのチームティーチングによる学習・保育指導補助 ・その他、この体験の目的に即した活動 などである。 「学校・保育現場体験Ⅰ」における体験学習に基づいて行うので、学生の体験は深まっているが、現場の先生・保育者の指導に基づき、適切な関わりを行う。			
授業計画 学校・保育現場での体験活動であり、通常の講義とは形態が異なるので、シラバスについても同様には記載できない。連携教育委員会・保育園との合意プログラムの概要を記載する。 学校・保育現場体験Ⅱ： 2年生通年 必修科目 30時間			
体験日時・内容 期間 日時 学校・保育現場体験Ⅱ 6月中旬～12月上旬 週1日火曜日×4日 8:20～16:30			
内容詳細 ① 業務全般(児童・幼児の個人情報に関すること、成績に関すること、会議参加等は不可) ② 授業・保育の見学・行事への参加・下校・帰りの指導・給食・清掃の補助 ③ 校外学習は参加不可(学校から徒歩で移動する校区探検・社会体験・社会見学などには参加可) ④ 授業における児童・幼児への指導補助 その他、この体験の目的に即した活動であり、校園長が認めるもの			
体験するまでの流れ			

◎学校・保育現場体験Ⅰ

4月下旬 説明会・事前指導

5月中旬 体験先決定(河内長野市教育委員会・高野山大学で協議)

6月中旬～ 体験開始

適宜、振り返りを含む中間的な指導

1月下旬 事後指導

テキスト

資料「学校・保育体験ガイド」配布

参考書・参考資料等

使用しない

学生に対する評価

教育実習に準じて、校園長、担任の評価を基に、担当教員が評価する。(100%)

授業科目名： 学校・保育現場ボランティア	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 村尾 聡/松本歩子 担当形態：複数				
科 目	大学が独自に設定する科目						
施行規則に定める 科目区分又は事項等							
授業のテーマ及び到達目標 教育・保育の現場を知る機会を豊富に持ち、教員・保育士の職業への理解を深め、教員・保育士として持つべき資質・能力の育成を目指す。学校・保育現場体験Ⅰ・Ⅱを終了した上で、3年次から4年次にボランティアとして関わる現場体験である。実習を終了しても参加可能であり、高い関心や意欲をもって関わることで、必要な資質・能力の一層の向上が見込まれる。							
授業の概要 学校・保育現場でのボランティア活動。 学校・保育現場体験Ⅰ・Ⅱと同様に、週一回、学校・保育園等に出かける。これまで培った体験を一層活かして、より高い資質・能力形成を行うためボランティアとして参加する。活動内容は、特に、放課後子ども教室、学童保育等について関わる形になる。							
授業計画 学校・保育現場での体験ボランティア活動であり、通常の講義とは形態が異なる。 連携教育委員会・保育園との合意プログラムの概要を記載する。 学校・保育現場体験での下記の体験活動を継続して行う。活動については現場の教員・保育士や職員と十分に連絡をとり、連携的に行うこと。							
体験日時・内容 <table border="0"> <tr> <td>期間</td> <td>日時</td> </tr> <tr> <td>学校・保育現場ボランティア</td> <td>6月中旬～12月上旬 週1日火曜日×2日 8:20～16:30</td> </tr> </table>				期間	日時	学校・保育現場ボランティア	6月中旬～12月上旬 週1日火曜日×2日 8:20～16:30
期間	日時						
学校・保育現場ボランティア	6月中旬～12月上旬 週1日火曜日×2日 8:20～16:30						
体験活動 放課後子ども教室、学童保育(放課後児童会)、駅前子ども教室の企画・運営							
体験するまでの流れ 4月下旬 説明会・事前指導 5月中旬 体験先決定(河内長野市教育委員会・高野山大学で協議) 6月中旬～ 体験開始 1月上旬 事後指導							

テキスト

資料「学校・保育体験ガイド」配布

参考書・参考資料等

使用しない

学生に対する評価

活動先責任者の評価をもとに、担当教員が評価する。(100%)

授業科目名： 日本国憲法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 森征樹
			担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	日本国憲法		
授業のテーマ及び到達目標			
講義で扱う「憲法問題」、「人権問題」を考えるにあたって、最低限必要な知識を身につけるとともに、それらの問題に対して自分の意見を持って解決策を探り、自分の主張を的確に表現できるようにする。すなわち、最低限の暗記は必要だが、自身の主張を論理的に形成して（説得力のある）文章に記すようになることが大事である。			
授業の概要			
われわれの社会では、憲法の内容を分からなければ理解できない様々な問題が日々起こっている。本講義では、時事問題や過去の裁判例などの具体的な事例を取り上げ、現代社会における「憲法問題」をどのように読み解けばよいのかを考察する。さらに日本国憲法の基本的な構造と原理を学ぶことによって、現代社会の問題点について、自己の意見を論理的に主張する力を身につける。			
授業計画			
第1回：ガイダンス／憲法とは何か			
第2回：人権とは何か／子どもの人権・外国人の人権			
第3回：新しい人権／プライバシー権・自己決定権			
第4回：法の下での平等／性差別とは			
第5回：表現の自由／なぜポルノは規制されるのか			
第6回：職業選択の自由（営業の自由）			
第7回：生存権／人間らしく生きるということ			
第9回：教育を受ける権利／誰が教育内容を決めるのか			
第10回：平和主義／戦争が起きないために何をする			
第11回：立法権／国会は何をするところか			
第12回：内閣／政府がしなければならないこと			
第13回：裁判所①／裁判の種類・内容			
第14回：裁判所②／司法審査制とは何か			
第15回：憲法改正／憲法は改正すべきなのか			
定期試験：あり			
テキスト			
初宿正典・高橋正俊・米沢広一・棟居快行『いちばんやさしい憲法入門〔第6版〕』有斐閣アルマ、2020年。			

参考書・参考資料等
西原博史、斎藤一久編著『教職課程のための憲法入門〔第2版〕』弘文堂、2019年。 志田陽子編著『合格水準 教職のための憲法』法律文化社、2017年。
学生に対する評価
期末試験（80％）、授業への積極的参加・小テスト（30％）。

授業科目名： 体育の理論と実技	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 本山司
			担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
授業のテーマ及び到達目標 ボール運動の個人技能を身につけたり，集団(チーム)としての動きの高まりをめざしたりして取り組むことができるようにする。また，自身の体力の維持増進を図るとともに，さまざまな運動の特性を知り，運動技能の向上を図ることができるようにする。			
授業の概要 「運動不足」「体力の低下」が問題視され，「運動嫌い」「スポーツが苦手」な子どもが増え，運動を指導するだけではなく，楽しさを伝える指導力が重要である。この体育実技では，体力強化，身体づくりとともに，運動やスポーツの楽しさを体感し，技能面を高めたり，楽しさを味わったりできるような練習やゲームの進め方を考えながら進めていく。			
授業計画 第1回：オリエンテーション 授業の進め方，成績評価の説明，今後の予定，簡単なボール運動を行う。 第2回：ドッジボール(さまざまな形式のドッジボール) 第3回：パスゲーム①(ドリブルを使わずに，簡単なルールで行う) 第4回：パスゲーム②(チームの戦術を考える) 第5回：バスケットボール①(3on3 バスケットボール) 第6回：バスケットボール②(チームの戦術を考える) 第7回：プレルボール①(基本技能の向上をめざす) 第8回：プレルボール②(チームの戦術を考える) 第9回：バレーボール①(基本技能の向上をめざす) 第10回：バレーボール②(チームの戦術を考える) 第11回：フラッグフットボール①(攻撃と守備の人数を変えて行う) 第12回：フラッグフットボール②(チームの戦術を考える) 第13回：フットサル①(基本技能の向上をめざす) 第14回：フットサル②(チームの戦術を考える) 第15回：授業のまとめ，振り返り			
テキスト 適宜資料を配布する			
参考書・参考資料等			

小学校体育科学習指導要領解説 体育編

学生に対する評価

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">・授業への積極的な参加(20%)・レポート (60%)・実技能力(20%) |
|---|

授業科目名： English Communication I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 伊藤佳世子 担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標			
英語で表現し伝え合うために、英語による聞く事、読む事、話す事、書く事の言語活動を通して、コミュニケーションを行う目的や場面、状況に応じて情報を整理しながら考えを形成し、再構築できるようにする事を目指す。			
授業の概要			
e-learning で学習したリーディング、リスニングの確認小テストと各課題の基礎文法を解説する。 さらに様々な場面を想定して英語で対話形式の演習を行う。またポスターセッションやプレゼンテーションも実施する。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション（講義の進め方、評価の仕方）			
第2回：バーバル・ノンバーバルコミュニケーション			
第3回：e-learning 小テストと基礎文法解説(1) ロールプレイ(自己紹介)			
第4回：e-learning 小テストと基礎文法解説(2) ロールプレイ(家族構成及び紹介)			
第5回：e-learning 小テストと基礎文法解説(3) ロールプレイ(キャンパスの紹介)			
第6回：e-learning 小テストと基礎文法解説(4) ロールプレイ（道案内）			
第7回：e-learning 小テストと基礎文法解説(5) ロールプレイ(電話対応)			
第8回：e-learning 小テストと基礎文法解説(6) ロールプレイ(買い物等、ショッピング)			
第9回：e-learning 小テストと基礎文法解説(7) ロールプレイ(ホテル等様々な予約)			
第10回：e-learning 小テストと基礎文法解説(8) ロールプレイ(入国審査と搭乗手続き)			
第11回：e-learning 小テストと基礎文法解説(9) ロールプレイ(幼稚園等)			
第12回：e-learning 小テストと基礎文法解説(10) ロールプレイ(小学校等)			
第13回：e-learning 小テストと基礎文法解説(11) ロールプレイ(病院)			
第14回：e-learning 小テストと基礎文法解説(12) ロールプレイ(新聞記事等、ニュース)			
第15回：前期の授業内容についての解説、ポスターセッションと質疑応答			
第16回：e-learning 小テストと基礎文法解説(13) ロールプレイ(日本文化の紹介①概要)			
第17回：e-learning 小テストと基礎文法解説(14) ロールプレイ(日本文化の紹介②仏教等)			
第18回：e-learning 小テストと基礎文法解説(15) ロールプレイ(日本文化の紹介③茶道)			
第19回：e-learning 小テストと基礎文法解説(16) ロールプレイ(日本文化の紹介④華道)			
第20回：e-learning 小テストと基礎文法解説(17) ロールプレイ(日本文化の紹介⑤書道)			

第 21 回：e-learning 小テストと基礎文法解説 (18) ロールプレイ (面接での自己紹介) 第 22 回：e-learning 小テストと基礎文法解説 (19) ロールプレイ (面接での自己 PR と志望動機) 第 23 回：e-learning 小テストと基礎文法解説 (20) ロールプレイ (面接官からの質問等) 第 24 回：e-learning 小テストと基礎文法解説 (21) ロールプレイ (面接官とのやりとり) 第 25 回：e-learning 小テストと基礎文法解説 (22) ロールプレイ (プレゼンテーションの司会) 第 26 回：プレゼンテーションの為のグループワーク (プレゼンテーションで取り上げる内容について) 第 27 回：プレゼンテーションの為のグループワーク (プレゼンテーションの構成等) 第 28 回：プレゼンテーションの為のグループワーク (パワーポイント作成等) 第 29 回：プレゼンテーション及び解説 第 30 回：全体のまとめと振り返り
テキスト 授業内容に応じて毎回プリントを配布する。
参考書・参考資料等 『小学校学習指導要領解説 外国語活動・外国語』文部科学省(平成 29 年) 授業中に適宜資料を配布する。
学生に対する評価 定期試験は実施しない。ポスターセッション(40%) プレゼンテーション(40%) e-learning小テスト(20%)

授業科目名： 情報と教育	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 広瀬勝則
			担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作		
授業のテーマ及び到達目標			
一人一台のコンピュータを使用して、実習形式でさまざまな操作技術の習得しながら、操作の仕組みや背景を理解するといった、総合的な情報リテラシーの獲得を目指す。			
授業では、以下の2点を到達目標とする。(1) 幼児・児童の興味・関心を高めたり学習内容をふりかえったりするために、幼児や児童の体験との関連を考慮しながら情報機器を活用して効果的に教材等を作成・提示することができる。(2) 幼児や児童の情報活用能力（情報モラルを含む）を育成するための指導法を理解している。			
授業の概要			
インターネットやメール、文書作成、表計算、プレゼンテーションなどコンピュータに対する情報活用能力は、将来の就業時においても大切な要素の一つである。さらに近年、各種情報がデジタル化された結果、デジタルカメラやスキャナーなど、コンピュータの周辺機器を扱う能力も必要とされるようになった。本科目では具体的な課題の演習をおこない、これらの技能を身に付け、同時に専門分野などへの応用ができる力が付くよう構成されている。			
次の「各回の授業テーマ・内容」に示した内容を学習し、ワード・エクセル・パワーポイントの持つそれぞれの基本機能を習得し、専門分野への応用ができる技能を身につける。			
授業計画			
第1回：パソコンの起動と終了、ウインドウの操作、ファイルやフォルダの管理。タッチタイピング練習。			
第2回：パワーポイント：PowerPoint2016 の起動と終了。簡単なプレゼンテーションの作成。			
第3回：パワーポイント：オブジェクトの挿入（ワードアート、画像、図形、表、テキストボックス等）。			
第4回：パワーポイント：Excel の利用（Excel で表とグラフを作成、Excel グラフの取り込み）。			
第5回：パワーポイント：効果的なプレゼンテーションにする（画面切り替え、スライドショー、アニメーション）。			
第6回：パワーポイント：自己紹介の作成			
第7回：ワード：Word2016 の基礎知識。入力のいろいろ（入力・文書編集）。			
第8回：ワード：体裁を整える（ページ設定・文書の書式設定）。			
第9回：ワード：表を作成する（表の挿入、表のレイアウト変更、表の書式設定、段落罫線の設定）。			
第10回：ワード：ビジュアルの文書（1）（ワードアートの挿入と編集、図形の描画と編集、画像			

の挿入と編集)。

第 11 回：ワード：ビジュアルの文書（2）「学園だより」の作成。

第 12 回：エクセル：Excel2016 の起動、データの入力（表示形式、フォントの書式設定、行や列の編集）。

第 13 回：エクセル：計算式の入力（式の入力、オートフィル機能、オート SUM、相対参照と絶対参照）。

第 14 回：エクセル：関数の利用とグラフの作成。

第 15 回：エクセル：データベースの利用（並べ替え、フィルターによる抽出）。

テキスト

『ポイントでマスター 基礎からはじめる情報リテラシーOffice2016 対応』実教出版株式会社 定価
(本体 600 円+税) (生協で購入)

参考書・参考資料等

『よくわかる Word 2016 基礎』富士通エフ・オー・エム株式会社 定価 2,200 円 (税込)

『よくわかる Excel 2016 基礎』富士通エフ・オー・エム株式会社 定価2,200円 (税込)

学生に対する評価

小テスト (30%)、課題 (60%)、発表 (10%)。授業態度も重視する。

授業科目名： 教育原理		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 岡部 美香
				担当形態：単独
科 目		教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想		
授業のテーマ及び到達目標				
【授業のテーマ】教育の基礎を理解し、現代的課題の本質を見出す。				
【到達目標】				
○教育に関わる基本的な概念を学び、自らの言葉で具体的に説明できる。				
○多様な教育の理念や思想が、どのような歴史的背景のもと現れてきたのかを理解している。				
○現代社会における様々な教育課題やその解決策について、多角的に考察できる。				
授業の概要				
【授業の方法】おもに講義形式で授業を進める。受講者数や授業の進み具合に応じて、グループ・ディスカッションも行う。また毎回の授業内では、小レポートの作成・提出を求める。				
【準備学習の内容】毎回授業終了時に、授業内容を復習し、そこで扱われたテーマについて、発展的に調べ、自分の言葉で考えること。				
授業計画				
第1回：イントロダクション——教育の原理を学ぶ意義				
第2回：「教える」とは何か——人間形成と教育				
第3回：「子ども」の誕生と変容				
第4回：西洋における教育の歴史と思想①——哲学・キリスト教と教育				
第5回：西洋における教育の歴史と思想②——ルネサンス・市民革命と教育				
第6回：西洋における教育の歴史と思想③——近現代の学校教育の成立				
第7回：西洋における教育の歴史と思想④——科学・ポストモダン時代における教育				
第8回：日本における教育の歴史と思想①——近代以前の教育				
第9回：日本における教育の歴史と思想②——近代学校の成立				
第10回：教育評価の歴史と思想——教育評価と学力観の変遷				
第11回：教育とメディア——学習理論と学習指導の形態				
第12回：現代社会と教育①——多文化教育				
第13回：現代社会と教育②——インクルーシブ教育				
第14回：現代社会と教育③——子どもの貧困				
第15回：授業のまとめと確認				
テキスト				

プリントを配布する。

参考書・参考資料等

岡部美香（編著）『子どもと教育の未来を考えるⅡ』北樹出版、2017年

古谷恵太（編著）『教育の哲学・歴史』学文社、2017年

学生に対する評価

授業内試験：授業への貢献度(20%)・コメントシート（30%）・筆記試験（50%）

授業科目名： 教職入門		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 今西 幸蔵
				担当形態：単独
科 目		教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 (授業のテーマ)				
教職に関する理解を深め、学校をとりまく教育条件を理解することにより教員の役割を認識する。 (到達目標)				
1) 教職に対する意欲を高め、基礎的な知識や技能が習得できる。				
2) 教員の視点からの子ども理解や指導に関わる理論について知ることができる。				
3) 今日の学校をとりまく状況と教員との関わりについて理解することができる。				
授業の概要				
この授業では、講義をとおして実際の教育行政や教育現場の様子を知り、教員としての基礎的な資質を高めることをめざす。学校現場では、多様な教育活動が求められているため、教員としてのあり方や指導の仕方について、個人としてだけでなくチーム学校として対応していかなければならないことを学ぶ。 また、学校が社会から期待されており、それに応えるべく教員の役割について実例を取り上げて解説するので、それを学ぶことによって自ら教員としての意識と意欲を高めてほしい。				
授業計画				
第1回：教職課程と教員免許制度				
第2回：教職の意義と教員				
第3回：教育行政と教員採用の現状【授業内課題1】教員の身分について				
第4回：教員と校務				
第5回：教員と教材研究				
第6回：教員の諸権利と義務【授業内課題2】教員の仕事の内容と教材研究				
第7回：子ども文化と子ども理解と生徒理解				
第8回：子どものいのちと安全を守る教育【授業内課題3】子どもをどう理解したか				
第9回：児童・生徒指導のあり方、進め方とチーム学校づくり				
第10回：教員と服務・研修制度				
第11回：教員に問われていること、求められていること【授業内課題4】良い先生とは				
第12回：教員に必要な資質や能力				
第13回：地域社会と学校の協働化【期末レポート】地域社会と学校とがどうつながるべきか				
第14回：教員と家庭・地域社会との関わり、コミュニティスクールの進め方				
第15回：過去と未来の学校				

定期試験を実施しない

テキスト

今西幸蔵・古川治・矢野裕俊『教職に関する基礎知識』八千代出版

参考書・参考資料等

下村哲夫『先生の条件』学陽書房

新井邦二郎・新井保幸『教職論』培風館

立田慶裕・今西幸蔵『学校教員の現代的課題』法律文化社

学生に対する評価

授業内課題（８０％）、期末レポート（２０％）

授業科目名： 教育と社会		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 山田 正行
				担当形態：単独
科 目		教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標				
人間が安心して生きられる安全な社会を基盤とし、またそれを支える教育のあり方、そのための学校と教師の役割をテーマとする。そして、これを実践的に理解して、児童生徒を地域の持続的な発展の担い手として育成できる教育的力量の向上を目標とする。				
授業の概要				
教育と社会の関連性を、教育の社会に対する機能や意義、及び社会の教育への影響や作用を基軸に学校や教師の役割や課題を講義する。児童生徒が社会の持続可能で公正な開発／発展を進め、超スマート社会（Society 5.0）を担える者となるための学力・体力・徳性・生きる力を身につけさせる授業実践を解説する。「経済再生」と「教育再生」など具体的課題に即してアクティブ・ラーニングを組み入れ、理論や知識を実践力に結実させる。グローバルな視座からマイスター制度の豊富な教育スタッフの協力による体験学習プログラムやフィールドワークに繋げる。				
授業計画				
第1回：授業の構成、進め方、目標、評価の基準などの説明（シラバスにある諸概念の詳しい解説）				
第2回：教育と社会を捉える視座—公教育制度と関係法規				
第3回：学校教育と社会教育の連携とシナジー効果（相乗効果）				
第4回：学校の基盤としての安全な地域社会—安全教育の役割と課題				
第5回：児童生徒の家庭生活の理解—学校教育と家庭教育				
第6回：教師と親・保護者の協力—PTAと相互教育				
第7回：子供会・少年団の教育的な機能—地域生活における形成と教育				
第8回：総合的学習とボランティア活動—アクティブ・ラーニングの指導として				
第9回：地域のグローバル化と学校の役割—外国にルーツのある児童生徒の指導				
第10回：グローバルに日本の伝統文化を活用した授業実践（多文化共生の中での日本的アイデンティティ）				
第11回：地域の人材を活用した授業実践（生涯学習の成果の還元・活用）				
第12回：学校開放とセーフティーネットの構築—安全教育の実践（アクション・リサーチ）				
第13回：「教育再生」における学校や教師の役割—レジリエンス、生きる力の育成のために				
第14回：超スマート社会（Society 5.0）に向けた学校や教師の役割—明日の日本を担う子供を教え育てるために				

第15回：授業のまとめ、振り返り、フィードバック

定期試験

テキスト

最新の研究成果や情報をまとめたレジュメを毎回配付する。

参考書・参考資料等

ジョン・デューイ『学校と社会』岩波文庫。稲垣恭子・岩井八郎・佐藤卓己編著『社会と教育』協同出版。『文部科学省白書』最新版。山田『アイデンティティと時代』同時代社。山田「公共性の実践的構造転換と学習の認識論・Ⅰ―「叢書生涯学習」（1987-1992年）の発展のために―」『大阪教育大学紀要』総合教育科学第68巻，2020年2月。山田「『モンスター』や『イジメ』の要因の考察と解決策の提案」『綜芸：高野山大学教育学科紀要』創刊号，2022年3月

学生に対する評価

授業への積極的参加20%、小レポート30%、定期試験50%。

授業科目名： 教育心理学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 米澤 好史 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		
授業のテーマ及び到達目標 こどもの発達、特性を正しく理解し、学習、教育のメカニズムを踏まえた、適切な支援、かわりができる人材育成をめざす。			
授業の概要 教職に関する科目「教育の基礎理論に関する科目」に相当し、教育の対象を理解するため、教育に関わる心理学的な視点を学ぶとともに、より効果的な教育方法やその結果を評価する方法について学修する。養護教諭として生徒に教育することはもちろん、将来、患者教育や保健指導、臨床指導や看護教育の場面で活用できることをねらい、本授業では発達と教育に関する概念・理論を学び、教育実践の基礎的スキルを習得する。			
授業計画 第1回：発達支援と発達を規定する要因 第2回：愛着という視点と人間関係の支援 第3回：愛着障害・発達障害の理解とその支援 第4回：いじめの理解と支援 第5回：不登校の理解と支援 第6回：特性の理解と評価 第7回：知能の特性とその発達 第8回：「わかる」メカニズムとその支援（1）－わかるの落とし穴－ 第9回：「わかる」メカニズムとその支援（2）－わかる支援に必要なこと－ 第10回：「覚える」メカニズムとその支援 第11回：「学ぶ」メカニズムとその支援（1）－できるとわかるの違い－ 第12回：「学ぶ」メカニズムとその支援（2）－学び支援のあり方－ 第13回：「意欲」のメカニズムとその支援 第14回：「考える」メカニズムとその支援 第15回：まとめ（こどもを支援するということ）			

テキスト

米澤好史（著）「愛情の器」モデルに基づく愛着修復プログラムー発達障害・愛着障害 現場で正しくこどもを理解し、こどもに合った支援をするー 福村出版

参考書・参考資料等

米谷淳, 米澤好史, 尾入正哲, 神藤貴昭（編著）『行動科学への招待〔改訂版〕ー現代心理学のアプローチ』 福村出版

学生に対する評価

出席及び授業参加意欲、参加態度50%、試験とレポート50%

授業科目名： 特別支援教育		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 宮本 直美
				担当形態：単独
科 目		教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		
授業の到達目標及びテーマ				
障害や特別なニーズのある子どもに対する、その子どもを支える教育や制度を理解することにより、特別支援教育の在り方とその方法を理解できることを目標とする。				
授業の概要				
現代の特別支援教育に至る今日までの歴史的変遷を、基本理念、制度、教育内容を通して学ぶ。そして、特別支援教育、システム、指導法の基本的な理解をする。				
授業計画				
第1回：特別支援教育とは～その概要～				
第2回：特別支援教育に至る障害児教育の歴史的変遷				
第3回：特別支援教育の理念、その基本的な考え方				
第4回：特別支援教育の対象				
第5回：「特別なニーズ教育」と特別支援教育				
第6回：個別の教育支援計画と指導計画				
第7回：特別支援学校における教育の概要				
第8回：特別支援学校における教育課程の特長				
第9回：特別支援学校における教育、その自立活動の目標及び内容				
第10回：特別支援学校におけるセンター的機能とその役割				
第11回：特別支援教育コーディネーターの役割				
第12回：幼、小、中学校等における特別支援教育～特別支援学級、通級、その指導の仕組み～				
第13回：幼、小、中学校等における特別支援教育～校内支援体制、その仕組み～				
第14回：幼、小、中学校等における特別支援教育～地域との連携教育体制～				
第15回：特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の把握や支援				
定期試験				
テキスト				
湯浅恭正著『よくわかる特別支援教育』，ミネルヴァ書房				
参考書・参考資料等				
学生に対する評価 定期試験50%、通常授業でのミニレポートの点数及び授業での取り組む姿勢50%				

授業科目名： 教育課程論		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 八木 英二 担当形態：単独
科 目		教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 (授業のテーマ) 学習指導要領をふまえ、教育課程について、その意義や編成の方法を理解するとともに、実情に合わせてカリキュラム・マネジメントを行うことの意義を理解する。 (到達目標) 1) 学校教育における教育課程の役割、機能、意義について理解する。 2) 学習指導要領・幼稚園教育要領の性格及び位置付け並びに教育課程編成の目的、改訂の変遷及び主な改訂内容を理解する。 3) 学習指導要領に規定されるカリキュラム・マネジメントの意義を理解し、カリキュラム評価の基礎的な考え方を理解する。				
授業の概要 学校教育は、目的や価値の実現をめざす活動であり、到達目標を達成するために、教育内容を組織的、体系的に編成するものが教育課程であることを講義する。講義で得た知見をとおして、学校における教育計画や教育課程の編成の仕方について、学生自身が身につけることができるよう、「主体的・対話的で深い学び」の場を設定する。				
授業計画 第1回：学習指導要領及び教育課程編成の意味理解 第2回：学習指導要領の歴史的変遷及び改訂内容 第3回：国際動向からみた教育課程【授業内課題1】学習指導要領とは何か 第4回：教育課程の社会的役割と機能 ー近年の国際的・国内的動向 第5回：教育課程編成の基本原則（「教育課程の構造」とコンピテンシー） 第6回：教育内容の選択と配列【授業内課題2】教育課程はどのように編成すべきなのか 第7回：生徒や学校、地域との連携、協働 ー社会的要請と学校の在り方 第8回：児童・生徒の実情を踏まえる指導計画【授業内課題3】子ども理解と学校の在り方 第9回：カリキュラム・マネジメントの意義(1) ー発達の階梯と学びのメカニズム 第10回：カリキュラム・マネジメントの実施(2) ー教育課程づくりの条件整備 第11回：カリキュラム評価(1) ー必要性和意義【授業内課題4】カリキュラム・マネジメントとは 第12回：カリキュラム評価(2) ー教育目標・評価論の変遷と機能 第13回：カリキュラム評価(3) ー評価の方法と実際				

第14回：グローバルな市民教育カリキュラム(1) ー新学習指導要領を中心に

第15回：グローバルな市民教育カリキュラム(2) ーこれからの社会（SDGs）と教育課程
小論文の期末レポートを提出。

テキスト

金馬国晴編『カリキュラム・マネジメントと教育課程』学文社

参考書・参考資料等

『小学校学習指導要領』東洋館出版社、『中学校学習指導要領』東山書房、『高等学校学習指導要領』東山書房

学生に対する評価

授業内課題（60%）、期末レポート（40%）

授業科目名： 道徳教育の理論と方法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 小林 将太 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
授業のテーマ及び到達目標 道徳教育を実践するにあたり、現代社会で生じる道徳的葛藤をはらんだ諸問題に対して、根本的なレベルで批判的考察を加えるために教師に求められる観点や思考力を身につけたうえで、それにもとづいて「特別の教科 道徳」の授業を実際に構想できるようになることを目指す。			
授業の概要 道徳教育の歴史・理論などの基礎知識を紹介し、道徳教育をめぐる現在の課題や焦点を押さえたうえで、学習指導要領に沿った具体的事例の考察を通じてその理解を深め、授業実践力の育成へとつなげる。授業では、ディスカッションやプレゼンテーション等を交え、適宜ビデオ教材を用いる。			
授業計画 第1回：イントロダクション（ガイダンスと導入） 第2回：道徳教育の歴史（1）——戦前（大正新教育など） 第3回：道徳教育の歴史（2）——戦後 第4回：道徳性の発達理論 第5回：学習指導要領に示される道徳教育の目標・内容・方法 第6回：道徳科の指導方法と学習指導案の作成方法 第7回：学習指導案の作成・検討（1）——主題（ねらいと教材） 第8回：学習指導案の作成・検討（2）——主題設定の理由 第9回：学習指導要領に示される道徳教育の指導計画・評価 第10回：模擬授業とその評価・改善（1） 第11回：学習指導案の作成・検討（3）——学習指導過程 第12回：学習指導案の作成・検討（4）——板書計画やワークシート 第13回：道徳教育における現代的な課題（シティズンシップ教育など） 第14回：模擬授業とその評価・改善（2） 第15回：総括			
テキスト 授業中に資料を配布する。			
参考書・参考資料等 文部科学省（2018）『小学校学習指導要領解説：特別の教科 道徳編』廣済堂あかつき 『中学校学習指導要領解説 道徳編』東山書房			

岡部美香・谷村千絵編（2012）『道徳教育を考える：多様な声に応答するために』法律文化社
苫野一徳（2019）『ほんとうの道徳』トランスビュー

学生に対する評価

出席・授業末に課すミニレポート・授業への参加度40%、学期末試験60%

授業科目名： 総合的な学習の時間の 指導法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 奥田 修一郎 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等 に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	総合的な学習の時間の指導法		
授業のテーマ及び到達目標 (テーマ) (1) 「総合的な学習の時間」の創設の趣旨・目標や内容等について理解を深める (2) 新学習指導要領の基本理念の一つに、「学びに向かう力」「人間性等の涵養」にあること を学び、「総合的な学習」を教科横断的に進めていける構想力も身に付ける。 (到達目標) (1) 「総合的な学習の時間」の目標・内容等に関わる専門的知識と指導技能、カリキュラム構 想力を身に付けられるようにする。 (2) 主体的で対話的な深い学びが目指せるような学びの姿勢を自ら協働で体験する中で、修得 できるようにする。			
授業の概要 本講義では、まず、「総合的な学習の時間」の創設の経緯、設定の趣旨等、基本的な考え方を学ぶ。 また、全体計画・年間指導計画の在り方、「主体的で対話的な深い学び」を目指した学習指導方法、 教育評価の在り方など、学習活動を具体的に進めるための基本的な事項について、先行研究や実践を 分析し考察する。さらに、学習活動の流れや支援の在り方の理解を深める。また、地域との連携の大 切さも先行研究資料からつかめるようにする。			
授業計画 〈総合的な学習の時間の考え方〉 第1回：創設の背景と趣旨 小中高時での「総合的な学習」時間を振り返る。 第2回：「総合的な学習の時間」の目標及び内容 どんな実践が生まれてきたか。 第3回：目指す生徒の姿と育てたい資質と能力の態度 ある地域での取り組みから。 第4回：教育課程上の位置づけ、各教科等との関連 小学校の実践から。 〈総合的な学習の時間の進め方〉 第5回：各学校における全体計画、年間指導計画 中学校の実践から（キャリア教育） 第6回：「主体的で対話的な深い学び」の実現をめざした授業改善，個別最適な学びと協働的な学び の一体的な充実の実現 〈総合的な学習の時間の実践〉 第7回：教材、教育環境（ICTの活用）、学習支援者をどう充実させていくか。			

第8回：地域連携体制をどう構築していくか。

第9回：小学校・中学校における全体計画・年間指導計画の作成（カリキュラム作成）

第10回：小学校における学習指導案の作成 ①（単元展開に視点をおいて）

第11回：中学校における学習指導案の作成 ②（テーマ設定に視点をおいて）

第12回：それぞれの学習指導案のプレゼンテーション（グループ発表）

第13回：STEM教育の中核としての総合的な学習の在り方について。

第14回：総合的な学習の時間における資質・能力の評価について-学びに向かう力を中心に-

第15回：目指す「総合的な学習の時間」とそれに向けての課題、まとめと振り返り。

テキスト

小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総合的な学習の時間編 東洋館出版社

中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総合的な学習の時間編 東山書房

高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 総合的な探究の時間編 東山書房

参考書・参考資料等

レジメ、資料は適宜配布する。

学生に対する評価

・レポート〔学習指導案、作品も含む〕（50%）

・小テスト（20%）、授業でのワークシート記述（20%）、積極的参加度・発表（10%）

授業科目名： 特別活動の指導法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 濱川 昌人 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別活動の指導法		
授業のテーマ及び到達目標			
教科外活動としての特別活動が、集団や社会の形成者としての見方や考え方を育む自主的、実践的な活動であることや特別活動で育成すべき資質・能力について理解する。			
(到達目標)			
1) 特別活動の目標や特質・教育的意義を踏まえ、特別活動で育成すべき資質・能力について理解を深める。			
2) 特別活動の内容、指導法について理解し、実践に向けたスキルを身に付ける。			
授業の概要			
講義により、特別活動における各活動（学級活動・ホームルーム活動、児童会・生徒会活動、学校行事、クラブ活動）に関わる内容を理解し、特別活動の基本的な考え方について学ぶ。また、各活動における学習過程を通して、どのように指導していくのかを実践事例なども踏まえ具体的に検討する。さらに、特別活動（学級活動）と学級集団づくり（学級経営）との関連について、集団活動の組織や進め方、リーダーシップ・フォロアーシップのあり方などを通して学びを深め、力量形成につなげる。			
授業計画			
第1回：教育課程における特別活動の位置づけと教育的意義及び各教科等との関連			
第2回：特別活動の歴史と課外活動			
第3回：特別活動の特質と指導原理 【授業内課題1】特別活動の基本的な考え方と意義			
第4回：特別活動の内容—学級・ホームルーム活動、児童会・生徒会活動、クラブ活動、学校行事等			
第5回：学級・ホームルーム活動の指導のあり方(1)・・・事前の指導			
第6回：学級・ホームルーム活動の指導のあり方(2)・・・話し合い活動・実践活動			
第7回：学級・ホームルーム活動の指導のあり方(3)・・・相互評価			
第8回：学級・ホームルーム活動の活動内容の指導1 学習指導案作成 【授業内課題2】学級・ホームルーム活動の年間指導計画を立てよう			
第9回：学級・ホームルーム活動の活動内容の模擬授業（実習）			
第10回：児童会・生徒会活動の目標・内容と指導上の留意点			
第11回：学校行事の目標・内容と指導上の留意点			
第12回：クラブ活動の目標・内容と指導上の留意点 【授業内課題3】学校行事の中に、児童・生徒			

の自発的・自治的な活動を取り入れる工夫を考えよう。

第13回：いじめ、不登校と特別活動 【授業内課題4】 いじめを予防するための方法を考えよう

第14回：道徳と特別活動の関連

【期末レポート】 よりよい集団づくりのために、特別活動を軸に据えた学級経営の方法を考えよう。

第15回：特別活動を生かした学級経営と家庭・地域、関係諸機関等との連携

定期試験を実施しない。

テキスト

中園大三郎・松田修（編著）21世紀社会に必要な「生き抜く力」を育む 改訂「特別活動の理論と実践」 学術研究出版社（2018）

参考書・参考資料等

小学校学習指導要領 特別活動編＜最新版＞文部科学省

中学校学習指導要領 特別活動編＜最新版＞文部科学省

高等学校学習指導要領 特別活動編＜最新版＞文部科学省

学生に対する評価

授業内課題（80％） 期末レポート（20％）

授業科目名： 教育方法論・ICT活用論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：
			担当形態：オムニバス
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教育の方法及び技術 ・情報通信技術を活用した教育の理論及び方法		
授業のテーマ及び到達目標			
これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な、教育の方法、教育の技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を身につける。			
(到達目標)			
1) 教育方法の基礎的理論と実践に関わる意味と、その在り方(主体的・対話的・深い学びの実現など)を理解しつつ、学習評価の基礎的な考え方まで理解できるようにする。			
2) 教育目的と指導技術の関係を理解して身につけること(目標・内容、教材・教具、授業・保育展開、学習形態、評価規準等の視点などを含む、様々な学習指導理論を踏まえつつ学習指導案を作成することができるようになること)。			
3) 情報機器を活用した効果的な授業や情報活用能力(情報モラルを含む)の育成を視野に入れた適切な教材の作成・活用に関する基礎的な能力を身につけること。			
授業の概要			
教育方法は、教育目的、目標、内容、評価に関わる実践プロセス全体のひとつの単位である。講義では、教科と教科外を問わず、子どもの指導に関わる具体的なVTR事例等を提示しつつ、歴史的経緯をふまえて、現代に必要な知識やスキルを扱う。また、子どもの成長・発達の観点とも関わらせながら、ICT教材やソフトの活用などを含む授業法等を説明し、情報機器を活用した効果的な授業や情報活用能力(情報モラルを含む)の育成を視野に入れた適切な教材の作成・活用に関する基礎的な能力を身につけさせる			
授業計画			
第1回：教育方法の学び方 ―授業研究等 (八木)			
第2回：教育目的・目標・内容と教育方法 (八木)			
第3回：子ども理解と教育方法 (八木)			
第4回：授業を構成する要件(学級、生徒、教員) (八木)			
第5回：教材・教具の意味理解(デジタル教科書等を含む) (八木)			
第6回：発問の方法と「表現の組織化」 (授業の基礎技術) (八木)			
第7回：学習指導案の作成方法 (八木)			
第8回：多様な学習形態と評価(含む学習履歴 (スタディログ) などを活用した指導や学習評価について) (広瀬)			

第9回：情報通信技術の活用の意義等(主体的・対話的で深い学びを実現するための授業とは、特別の支援を必要とする児童及び生徒に対するICT活用) (広瀬)

第10回：ICTによる学びの保障(遠隔・オンライン教育の工夫)とICTを効果的に活用した校務の推進 (広瀬)

第11回：教育情報セキュリティの重要性を理解し、情報活用能力(情報モラルを含む)について、各教科等の指導事例を理解する。(広瀬)

第12回：児童及び生徒に情報通信機器の操作を身につけさせるための指導法を身につける。

第13回：ロイロノートを使った授業教材の作成 (広瀬)

第14回：ロイロノートを使った模擬授業を発表する (広瀬)

第15回：ICT活用のための環境整備及び構内体制と外部連携(ICT支援員等の活用)及びまとめ (広瀬)

テキスト テキストは用いないが、各回の講義で資料を配布

参考書・参考資料等

文部科学省『小学校学習指導要領』、文部科学省『中学校学習指導要領』、文部科学省『高等学校学習指導要領』

学生に対する評価

各回講義の内容や資料等についての感想提出(50%)、期末レポート(50%)

授業科目名： 生徒指導論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 今西 幸蔵 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	生徒指導の理論及び方法		
授業のテーマ及び到達目標 (授業のテーマ) この授業は、学校における生徒指導の在り方や進め方を理解することによって、実際に児童・生徒を指導・支援する具体的方略について理解することを目的とする。 (到達目標) 1) 学校における児童・生徒に対する指導の意義や原理を把握する。 2) 幼児期から少年期に至る児童・生徒の特性を知り、そのための学校の指導体制をつくり、必要な指導や支援について理解できる。 3) 発達障害のある児童・生徒について正しく理解し、適切な指導ができる。 4) 不登校や問題行動を行う児童・生徒について支援し、指導できる。 5) 児童・生徒を指導するための地域ネットワークを構築することの意義が理解できる。			
授業の概要 今日の学校ではさまざまな問題が生起し、重要課題として児童・生徒に対する適切な指導が求められている。生徒指導の本質を理解し、指導原理をふまえた指導技術を習得することが必要である。不登校や問題行動のある児童・生徒、発達障害のある児童・生徒に対して、教員として適切な指導が行えるよう、多面的な観点からの生徒指導の進め方を講義する。			
授業計画 第1回：学校と生徒指導の意義 第2回：生徒指導の方法原理 第3回：生徒指導と教育課程の関係【授業内課題1：教員として生徒指導をどう理解したか】 第4回：児童の特性と理解 第5回：生徒の特性と理解【授業内課題2：現代の児童・生徒の意識と行動】 第6回：学校における児童・生徒への指導体制 第7回：教育相談の意義と実践的スキル 第8回：スクールカウンセリングの意味と諸機関との連携【授業内課題3：カウンセリングマインド】 第9回：児童・生徒全体への指導の進め方 第10回：学校行事における学級指導の進め方【授業内課題4：全体指導の実践的能力】 第11回：個々の児童・生徒への指導と支援1（問題行動）			

第12回：個々の児童・生徒への指導と支援2（不登校）

第13回：個々の児童・生徒への指導と支援3（発達障害）【期末レポート：個々の児童への指導法】

第14回：「校則」等に見る規範と法制度の理解

第15回：学校と家庭・地域社会との関係づくり

定期試験を実施しない。

テキスト

今西幸蔵・古川 治・矢野裕俊『教職に関する基礎知識』八千代出版

参考書・参考資料等

文部科学省『生徒指導提要』教育図書

学生に対する評価

授業内課題（80％）、期末レポート（20％）

授業科目名： 教育相談	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 上野 和久
			担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		
授業のテーマ及び到達目標			
学校教育相談の意義や方法について理解できる。また、子どもの発達課題や学校・家庭・社会の中で遭遇する典型的な課題についての基本的理解を得ることができる。			
授業の概要			
学校教育相談の主要テーマに関する実践や課題を述べ、質疑や討議や発表を通して、学校教育相談の意義や方法について具体的に考察する。また、子どもの発達上の課題や学校・家庭・社会の中で遭遇する問題を取りあげ、それらへの理解を深めていく。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション			
第2回：学校教育相談とは			
第3回：学校教育相談と生徒指導			
第4回：学校教育相談の基礎1－カウンセリングの基本－			
第5回：学校教育相談の基礎2－カウンセリングの諸理論－			
第6回：学校教育相談の基礎3－発達障害－			
第7回：学校教育相談の基礎4－アセスメント－			
第8回：スクールカウンセラーとスクールソーシャルワーカー			
第9回：校内連携－チーム学校－			
第10回：保護者との関係			
第11回：学校教育相談と不登校			
第12回：学校教育相談といじめ			
第13回：学校教育相談と虐待			
第14回：学校教育相談と特別支援教育			
第15回：まとめ			
定期試験			
テキスト			
「体験型ワークで学ぶ教育相談」（2019年、小野田正利他監修 大阪大学出版会）			
参考書・参考資料等			
生徒指導提要（平成22年3月 文部科学省）。他は、授業の中で適宜紹介する。			

学生に対する評価

授業での態度・意欲・発表（50％）、試験（レポートを含む）（50％）

授業科目名： 進路指導・ キャリア教育	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 濱川 昌人 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	進路指導及びキャリア教育の理論及び方法		
授業のテーマ及び到達目標 （授業のテーマ）児童の「生きる力」の育成を目的として、学校におけるキャリア教育・進路指導の意義や原理を理解する。 （到達目標） 1)進路指導・キャリア教育についての意義や原理を知り、具体的な指導につながるような力量を身につけることができる。 2)進路指導・キャリア教育についての歴史的な背景や変遷、期待されることについて理解を深めることができる。 3) 学校と地域や関係機関との連携の重要性を理解し、具体的な連携や取り組みについて調べ検討し、教育課程づくりに生かすことができるようにする。			
授業の概要 進路指導・キャリア教育の意義や内容、基本的な考え方について理解し、キャリアに関わる諸要素やコンピテンシーについて講義する。学校と地域や関係機関との連携についての重要性について理解するとともに、具体的な内容について調べたり、討議したりしながら内容を深めていく。また、これらの内容を生かしながら、進路指導・キャリア教育の視点に立った授業改善や体験活動、評価改善の推進やガイダンスとカウンセリングの充実に求められる知識、技能や素養を身につける。			
授業計画 第1回：進路指導・キャリア教育について 第2回：進路指導・キャリア教育の必要性和意義・内容 第3回：キャリア発達の諸要素と職業観・勤労観の育成 【授業内課題1】キャリア教育の意義、内容と原理 第4回：キャリア教育推進のための学習環境の整備 一学校における生徒指導・進路指導体制 第5回：学校内外におけるキャリア教育・進路指導支援、指導体制及び家庭や関係機関との連携 【授業内課題2】保護者や関係機関との連携の意義と方法 第6回：児童・生徒理解の方法—個別の課題を抱える生徒への対応など 第7回：進路指導・キャリア教育が目指す基礎的・汎用性能力を身につけ、最新のキャリア教育の実例を学ぶ 第8回：子どもの進路をめぐる状況—就職・雇用構造の変化と学校教育			

第9回：教科教育におけるキャリア教育

第10回：「キャリア教育の要」として特別活動

【授業内課題3】「教科教育」を通して「キャリア教育」をどのように進めていくか

第11回：キャリア教育を志向する教育課程づくり（全体計画）

第12回：キャリア教育を志向する教育課程づくり（年間指導計画）

【期末レポート】キャリア教育を教育課程にどのように生かしていくか

第13回：キャリアアウンセリングの基礎的な考え方と実施方法

第14回：これからのキャリア教育と諸課題

第15回：振り返りおよびまとめ

定期試験を実施しない。

テキスト

文部科学省 改訂版『小学校キャリア教育の手引き』教育出版

参考書・参考資料等

経済産業省 『キャリア教育 ガイドブック』学事出版

『働く人のためのキャリアデザイン』PHP

学生に対する評価

授業内課題（60％） 日常の役割と発表（20％） 期末レポート（20％）

シラバス：教職実践演習

シラバス：教職実践演習 (幼・小・中・高)		単位数：2単位		担当教員名：今西幸蔵	
科 目	教育実践に関する科目				
履修時期	4年次後期	履修履歴の把握(※1)	○	学校園現場の意見聴取 (※2)	○
受講者数 20 人					
教員の連携・協力体制 本事業の実施においては、地元である河内長野市教育委員会及び大学近辺の幼稚園・小学校・中学校・高等学校等での連携・協力を得て進行する。本カリキュラム全体や教育施策等については、教委事務局職員から助言を受け、学校現場理解やアクティブ・ラーニング実施等の授業に関わる内容については、幼稚園・小学校・中学校・高等学校等での演習・実習等、あるいは教員を授業に迎えることによって学生の理解を深める。					
授業のテーマ及び到達目標 教職（幼・小・中・高）に関する学修の集大成としての実践的授業である。教職課程のすべての学びを通して身につけた資質・能力が教員として必要な資質・能力として有機的に統合され、形成されたかを確認する。					
授業の概要 履修カルテで教職課程の履修を振り返り、指導力や実践的な課題を学ぶ。それらを通じて、自己課題を明らかにしていく。主な授業形態は講義や演習、プレゼンテーション、グループ討論、事例研究、模擬授業、ロールプレイ等を組み合わせて実施する。					
授業計画 第1回：教職実践演習の意義と課題の概要 第2回：これまでの教職課程の学修の振り返りについてのグループ討論 第3回：教職の意義や教員の役割、職務内容について 第4回：幼児児童生徒理解や学級経営の事例研究（1）幼稚園・小学校低学年（パワーポイント作成） 第5回：児童生徒理解や学級経営の事例研究（2）小学校中・高学年（パワーポイント作成） 第6回：生徒理解や学級経営の事例研究（3）中学校・高等学校（パワーポイント作成） 第7回：社会性や対人関係能力についてのロールプレイ（1）幼児・児童 第8回：社会性や対人関係能力についてのロールプレイ（2）生徒 第9回：社会性、対人関係能力、幼児児童生徒理解、学級経営についてのグループ討議 第10回：教科の指導力育成のアクティブ・ラーニング（1）幼稚園、小学校 第11回：教科の指導力育成のアクティブ・ラーニング（2）中学校・高等学校 第12回：教科の指導力育成に関わる発表（ICTを活用したプレゼンテーション） 第13回：授業の体験学習 第14回：学校園現場の見学・調査に学ぶ 第15回：総まとめ					
テキスト					
資料配布					

参考書・参考資料等

今西幸蔵他『教職に関する基礎知識』（改訂版）、八千代出版、H30

学生に対する評価

小レポート（30%）、プレゼンテーション（30%）、最終レポート（40%）

- ※1 履修カルテを作成し、これを踏まえた指導を行う体制が備えられていることを確認し、「○」と記載すること。
- ※2 授業計画の立案にあたって教育委員会や学校現場の意見を聞いた場合には「○」と記載すること。そうでない場合は空欄とせず、「×」とすること。